



古き港町の面影 海津・西浜・知内の水辺景観 重要文化的景観

湖岸に堂々と築かれた石積みが、
独特の景観を生み出しています。

海津・西浜・知内地区は琵琶湖北部の主要な港町・宿場町として漁村として栄えた場所です。湖岸に築かれた防波石垣が特徴となっています。この地区の水辺景観が、平成20年に全国で5番目の重要文化的景観に選定されました。その景観を構成する重要な要素として、海津・西浜の石積みのほか、漁業組合の旧倉庫、町家などを定めています。町家は、いずれも江戸時代末期の建築で、街道沿いの宿屋・商店として建てられた木造の建築です。

生きた水がめぐる 針江・霜降の水辺景観 重要文化的景観

川の周囲に生きる人たちは
水を巧みに利用し、今なお継承しています。

針江・霜降地区は、豊富な湧水を利用する「カバタ文化」で知られています。この湧水を「生まれる水」と書いて「生水(しょうすい)」と呼び、今も日々の生活の中で大切に使われています。家々の「カバタ」で湧き出た「生水」は、針江大川や小池川から内湖を通じて琵琶湖へと注がれます。湖岸にはヨソ原が広がり、日本の原風景とも言うべき景観が現在も残されています。ヨソ原は琵琶湖に接む多様な魚類の産卵場所となっています。静かな郷に生きた水がめぐる貴重な景観がここにあります。

見学には予約が必要です。
【針江生水の鑑委員会】 TEL:0740-25-6566
時間:10:00～16:00 冬期は15:00まで



川の魔物を取り除く神様 シコフチ信仰

筏乗りを川の魔物から護るとい
う安曇川流域独特の信仰

シコフチ神は筏(いかだ)乗りの守護神で、安曇川水系の地域に伝わる独自の信仰です。次のような伝承も残ります。「シコフチ神が息子と筏で安曇川を下り、大淵に達した時、カッパがいたずらをして息子を引き込もうとしたので、懲らしめて筏乗りの安全を約束させた」。安曇川は渓流部分も多く、筏師は命かけの大仕事であったことから、危険な箇所には川の魔物を取り除く神「シコフチ神」が祀られたと考えられています。

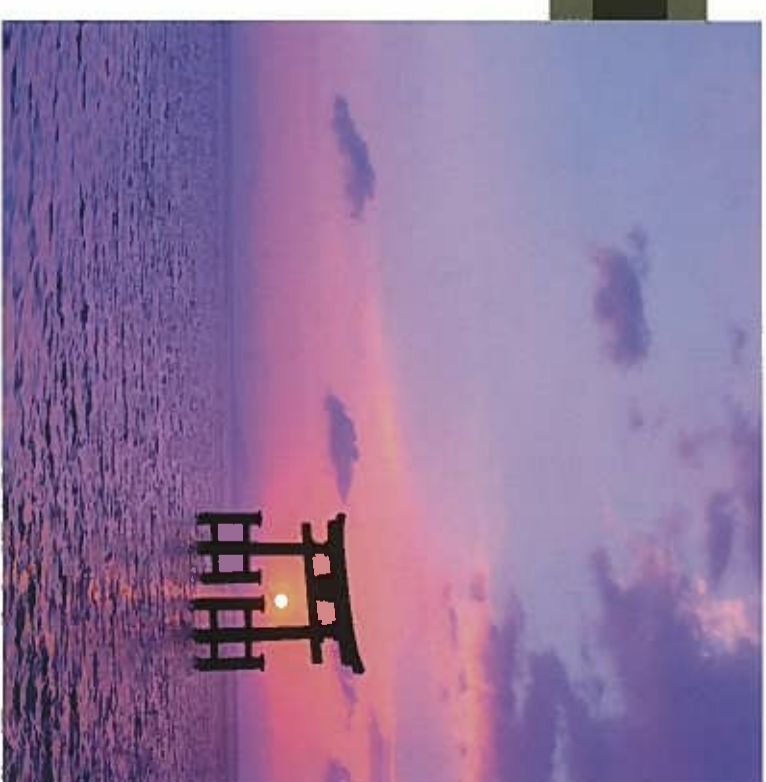


湖上に浮かぶ大鳥居 白鬚神社 重要文化財(建造物)

大鳥居は時間帯によって
様々な表情を見せてくれます。

琵琶湖に浮かぶ大鳥居が有名な、近江最古の神社。「白鬚」という社名が示すとおり延命良薬の神様が祀られており、参拝客も多い滋賀の絶景スポットです。境内には有名な歌人の歌碑が多数あり、これも見所の一つ。与船野繁幹・晶子夫妻が参拝した時に詠んだ「しらひすの神のみまへにわくいつみ これをむすべは ひとの清まる」という歌は社前に掲ぎ出る水の清らかさを詠んだもので、上の句は繁幹、下の句は晶子の合作と伝えられています。

【湖上の鳥居ライトアップ】
日時:①土曜・日曜・日没から約2時間 ②9/5 日没から22:00頃まで
③大晦日 夜明けまで ④1/1～1/5 日没から21:00頃まで
【お問い合わせ】0740-36-1555



水を使う知恵を伝える 大溝の水辺景観 重要文化的景観

奈良時代最大の内乱「藤原仲麻呂の乱」の
最終決戦地としても有名。

古来、若狭と畿内の結節点として栄えた港「勝野津」を中心に栄えた地が「大溝」です。周辺の地名が万葉集などの文学作品に登場するほか、琵琶湖の内湖である乙女ヶ池は奈良時代最大の内乱である「藤原仲麻呂の乱」の最終決戦の地としても有名です。そして戦国時代末期には、織田信長が大溝城を築かせ、琵琶湖集勢戦略の拠点として支配しました。一方大溝では、山からの湧き水や井戸水を巧みに利用する生活形態が今も伝えられています。

